第33回青年部定期大会

青年のネットワークをつくり 活動家を育てよう！

部落解放同盟青年部第33回定期大会が5月13日、同和企業センターでひらかれた。議長に小原雅友（岩橋支部）を選出し、議事がすすめられた。主催者を代表して松井資喜青年部長より「青年部が結成されている14支部や、青年部組織がない支部について、解放運動の将来的な展望を視野に入れ、部落を離れた青年も巻き込みながら後継者となる人材を育て、ネットワークを作っていこう」と呼びかけた。

ネットワーク作りを呼びかける松井青年部長

来賓の藤本書記長は「今年は全国水平社90周年を迎え、来年は和歌山県水平社も90周年を迎える。水平社運動の原動力であった青年や女性、子どもの力で解放運動を牽引して欲しい」とあいさつした。つづいて、田上武・県共闘会議議長から『部落の解放なくして労働者の解放なし、労働者の解放なくして部落解放はなし』というスローガンを基軸に県共闘会議が結成された経緯が説明され、今後も狭山闘争をはじめとした三大闘争を中心に部落解放に向けてとりくみを強化していこうとあいさつがあった。

つづいて、井端尚司青年部副部長が2011年度活動報告をおこない、青年の行動が県内全体にひろがるようとりくみをすすめることを参加者全員で確認した。活動方針案として『人権侵害救済法』の早期制定や、「狭山差別裁判糾弾闘争」、「差別糾弾闘争」、「行政闘争」、「青年の組織強化拡大」に向けてなど、久保智弘事務局長が提案し、参加者全員で採決した。

次に、速水諒（新宮支部）から、今大会の参加人数が報告され、第33期の役員体制について提案があり、参加者全員で採決した。

最後に、「差別裁判うちくだこう」を合唱し、岸田貴裕青年副部長が「青年活動の強化をめざして頑張ろう」と閉会のあいさつをして大会は終了した。

青年部役員

青年部長　松井　資喜
副部長　井端　尚司
　　岸田　貴裕
事務局長　久保　智弘

青年部大会に集まった青年たち

今後の日程

6/16～18　第3回マイノリティ女性フォーラム（沖縄県）
6/20　第27回人権啓発研究集会第2回現地実行委員会（同和企業センター）
6/21～22　第23回高齢者交流集会・高齢者連絡協議会第22回総会（湯浅城ほか）
6/22　狭山ビラ統一行動
6/24　山口支部定期大会（山口会館）
6/25　差別街宣に対する損害賠償請求第5回口頭弁論（奈良地方裁判所）
6/28　善明寺支部女性部大会（善明寺文化会館）
6/29　笠田東支部女性部大会（笠田東町民会館）
6/30　那賀支部女性部大会（那賀総合センター）

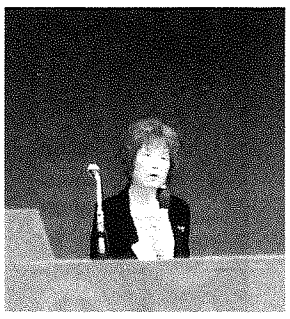
お詫びと訂正　131号で新宮支部定期大会が5/20と なっていましたが5/28でした。訂正してお詫びいたします。

第57回全国女性集会

女性の力を結集

5月19日、20日、佐賀市文化会館を主会場に第57回全国女性集会が開催され、和歌山県連から19支部39人が参加した。

交通機関の関係で全体集会の途中からの参加となった。岸田章子中央女性運動部長より①女性を取り巻く現状、②部落女性の実態、③部落解放運動の現状と課題、④男女平等社会の実現について基調提案がおこなわれた。記念講演では「女性に対する人権を考える～女性に対する暴力について～」久留米市男女平等社会推進センター相談コーディネーターの石本宗子さん（社会福祉士）より、DV問題やセクハラの統計から明らかになっている状況が報告された。3日に1人以上の女性が夫に殺害され、2日に2家族以上が事件に巻き込まれ、1日8・7人が配偶者間の暴力で検挙されているという実態が報告された。


DV・セクハラの現状の講演

まとめに、誰もが人生の主人公として安心して生きられる社会をめざし、みんなで手を携えていきましょうと語られた。

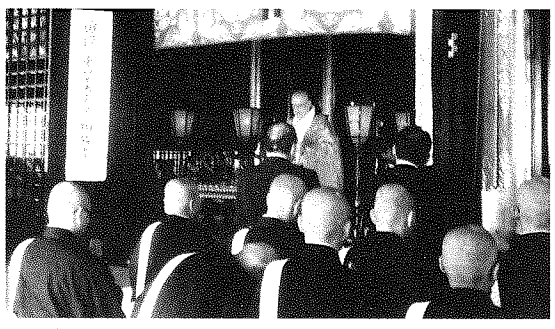
2日目は、7つの分科会に分かれ、各都府県連の活動報告を聞き、学習と交流をおこなった。

次回、第58回全国女性集会は、2013年5月18日、19日に愛知県で開催される。

高野山真言宗が29回目の差別戒名追善法会を

5月7日午前、高野山真言宗による萬民平等差別戒名追善法会が高野山大伽藍金堂で執りおこなわれた。この法会は1984年から毎年この日におこなわれているもので、今年で29回目。1983年8月、第3回世界宗教者平和会議での全日本仏教会理事長の差別発言をきっかけに、宗教教団の差別解消に向けたとりくみが見直され、「同和問題にとりくむ宗教教団連帯会議（同宗連）」が結成された経緯がある。この日供養されたのは、12か寺の墓石、過去帳から発見確認された御霊で、部落解放同盟からは、組坂中央本部委員長、池田清郎県連副委員長はじめ代表が参加した。

法会は、松長有慶高野山真言宗管長・総本山金剛峯寺座主を導師におこなわれ、深真樹社会人権局長が「今尚、差別の実態多く、就中く過去の身分を示す差別戒名の現存するは・・・萬民平等を常に提唱されし祖師大師の意に反するものにして・・・心からなる反省の誠を捧げ奉らん」と廻向文を読みあげた。

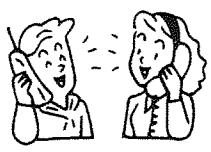

宗団を代表してあいさつする永島龍弘総務部長

宗団を代表して永島龍弘総務部長が「現生で差別という苦しみから解放されんとするとき、死後もその苦しみを負わせたとことを心から反省をし、この世から一日も早く差別がなくならんことを願いご供養申しあげています。昨年の東日本大震災では多くの命が失われ、放射能による風評被害や差別もおきています。誤った認識・無知・無関心による偏見と差別を次に受け継がさないよう、宗団をあげてより一層人権意識の高揚につとめます」とあいさつした。

熱心に聞き入る参加者

参列者を代表して組坂委員長は「今朝はどしゃ降りの雨と雷だったが、この法会が始まるやいなや、弘法大師様の伝説さながら雨は止み、陽がさしてきた。水平社が結成されて90年が経っても部落差別は解消できていないことは誠に残念」と遺憾の意を表し、差別撤廃への新たな決意と、厳かながら心通う法会にお礼をのべた。

支局からのお知らせ


お気軽にお電話を！

和歌山支局では、各支部でのとりくみを積極的に紹介していきたいと思います。支部活動や子ども会活動など、支局までお知らせいただければ、取材に走ります。もちろん、投稿記事も大歓迎！　写真を添えて支局までお送り下さい。

（発送先）〒640－8314
和歌山市神前405－3
部落解放同盟県連合会内
解放新聞和歌山支局宛